

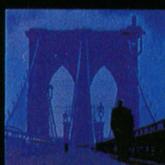
# WOLFEN

There is no defense.



われわれは一人ずつ、確実に狩られていく。

その聴力は——人間の思考音を聴き分け、その視力は——人間の魂を直視し、その嗅覚は——人間の行動を予見する。そして攻撃力は——現代科学を遙かに凌ぐ。



# ウルフェン

ORION PRESENTS

ORION PRESENTS WOLFEN

製作・総指揮◎アラ・キング 製作◎ルパート・ヘッツィグ 脚本◎デビッド・アイアー◎マイケル・ウォドレー 原作◎ホイットレー・ストリーパー(早川書房刊) 監督◎マイケル・ウォドレー  
撮影◎ゲリー・フィッシャー 音楽◎ジェームス・ホーナー◎アルバート・フィニー ダイアン・ペノラ トム・ノーナン エディ・オルモス オリオン映画 配給 東映株式会社



# ウルフェン

**ウルフェン**——その視力は、人間の魂を直視し  
その聴力は、人間の思考音を聴き分け  
その嗅力は、人間の行動を予見し  
そして**攻撃力**は、現代科学をはるかに凌ぐ。

## 解説

——それはいきなりアメリカから始まった。  
何の前兆もなく、何の理由もなく、そして何の痕跡も残さず、アメリカの市民が次々と姿を消しはじめる。  
1日に行方不明の者、数百人。これはもう単なる失踪事件とは言えない。  
真夜中のマンハッタンで、やがて発見される若い富豪夫妻とガードマン兼運転手の惨殺死体。3人も首や手足が、何か鋭利なもので裂き切られている。しかし金属のかけらさえ発見できない。  
巨大なアメリカは、日を追ってふくれあがる得体の知れない黒い恐怖に脅えはじめる。  
偏執狂による殺人か、政治的テロによる殺戮か、それとも人間の理解を超えた何ものかの出現か。やがて1人の刑事が、テロリズム専門の若い女性心理学者とチームを組んで、困難な捜査に挑んで行く。得体の知れない恐怖への応戦。  
世界一のマンモス都市ニューヨークを走る正体不明の黒い影。しかしそれは、高度な現代科学・心理学をもってしても解明不可能。そして誰もその脅威から逃れられない。  
殺害現場から発見された狼の毛。これを唯一の手がかりとして事件を追う刑事と女性心理学者。だが、ニューヨーク周辺に野生の狼が生息する筈がない。しかしそれは、人間をはるかに超えた頭脳と、視力、聴力、嗅力で、刑事と女流学者の思考と行動を見ぬき、また鋭い攻撃を加えるチャンスを狙っていた。  
捜査の進展に伴って、次第に浮かびあがる黒い狼の影と

インディアン伝説との深い関わり。生物学者たちのそれへの戦いにも似た肉迫。そして17世紀にアメリカ本土を獲得した征服者の怪死、現代富豪資本家の都市計画に対する犠牲者たちの不気味な泣き。やがてこれらがいっきにラストの対決クライマックスへ突きす、んで、想像を絶する恐怖の正体を明かして行く。それとはいったい何か!?何の化身なのか!?狼の姿を借りて、しかも狼ではない何か!?

映画はこのかつてない異常な恐怖ドラマを表現すべく、映像とサウンド双方の技術面で画期的な実験を試み、身ぶるいするほどのホラー・ショッカー効果を生みだすことに成功。とくにその特殊現象によるソラリゼーション効果は恐怖感を大きく増巾している。この斬新な映画手法はケムトン方式と名づけられたが、いまアメリカ映画界では、このケムトン・エフェクトの話題でもちきり。世界はまたひとつ驚異の映画システムを獲得した。

《地上には、われわれに想像できないようなものが存在している。われわれに死をもたらす生きものが…》'81秋、その恐ろしい何かが、アメリカから日本へ波及する。

なおスタッフは製作・総指揮＝アラン・キング、製作＝ルパート・ヒツィグ、脚本＝デビッド・アイアー、マイケル・ウォドレー、監督＝マイケル・ウォドレー、撮影＝ゲリー・フィッシャー、そして原作＝ホイットレー・ストリーバーのベスト・メンバー。

出演者は、イギリスの中堅名優アルバート・フィニーをはじめ、ダイアン・ペノーラ、トム・ヌーナン、エディ・オルモスら堅実な顔ぶれが揃っている。

近日常路ショー

新宿歌舞伎町

新宿ミラノ座

(202) 1189

渋谷東急文化会館1F

渋谷パルテオン

(407) 7219

地下鉄東銀座駅前

松竹セントラル

(541) 2714

●特別鑑賞券1200円(当日一般1500円の処)・1100円(当日学生1300円の処)発売中!

連日 11:50 2:10 4:30 6:50